

## 平安宮をあるく

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



千本丸太町交差点

この交差点の北西に大極殿がありました。現在、北西角と南東角に説明板が設置されています(南東から)。

1994年4月から95年12月まで、「1200 平安京」として平安京とその周辺の遺跡をシリーズで紹介してきました。

東寺や神泉苑などを訪れると、今でも平安時代をしのぶことができますが、今回は埋もれてしまった遺跡を示す表示板や石碑などをたどりながら、平安宮を歩いてみましょう。

千本丸太町交差点。通りに面して商店や銀行のビルが建ち並び、車や人の往来が絶えないこの辺りは、平安宮の中心、朝堂院の大極殿があったところ。北西の内野児童公園には、古くから大極殿跡の石碑もあります。ここより南に朝堂院の建物群が建ち並び、さ

らに朱雀門、そこから真っすぐ朱雀大路が延びていました。千本通りは平安時代には都のメインストリートだったのです。

交差点に戻って、西へ少し行くと豊楽殿跡があります。ここは、凝灰岩を用いた建物の基壇などが大変良く残っており、調査後、国の史跡に指定され地下に遺構が保存されています。さらに西へ進み七本松通りを過ぎると、京都アスニーがあります。この辺りには造酒司という役所があり、倉庫跡もみわかりました。

交差点の東、大極殿の東隣は中務省のあったところ。中務省跡は、平安宮の中でも最も多くの調査成果があがっているところの

ひとつで、建物の配置などもわかってきています。ここから南へ、二条城の西側の歩道に二条大路北築地を示すラインが引かれています。これが平安宮の南限です。ちなみに北は現在の一条通り、東は大宮通り、西は御前通りが平安宮の境界にあたります。

交差点の北東には、内裏がありました。下立売通りに面した調査では、内廊回廊跡や承明門跡など多くの遺構がみわかりました。

それでは、このリーフレットを片手に実際に歩いてみましょう。なお、発掘調査で出土した遺物やそれぞれの遺跡に関する資料は、京都市考古資料館で見学することができます。(近藤知子)



北

京都市考古資料館



西陣通

今出川通り

富原通

大宮通り

仁和寺

千本通り

一条大路

仁和寺

平安宮



正観小学校

大宮大路

西大宮大路



内野児童公園の南側に「大極殿跡」とあり、これは明治時代に建てられた現在の位置から移されたことがわかりました。

「内裏内御回廊跡」天皇の住居の内裏を囲んでいた二重の回廊が所蔵、構造がわかりました。



昭慶門跡  
千本通り側へ  
歩道に付いた  
昭慶門跡と  
小安殿跡



「内裏水明門跡」地盤の高低差がみづかり、内裏の南門の水明門があったことがわかりました。



造司跡  
酒や酢の醸造が  
おこなわれていたと  
腐敗跡の柱穴が復原  
されています。



千本式大町交差点北西角の「大極殿跡」朝学院の正殿である大極殿跡の調査は交通量の少ない夜間におこなわれ、基壇の一部のみがみづかりました。

内裏

浄土寺通り

出水通

下立池通り

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省



朝堂院跡  
あまの銀行前の石段



朝堂院跡  
朝堂院の正殿である朝堂院の調査は交通量の少ない夜間におこなわれ、基壇の一部のみがみづかりました。

出水通

下立池通り

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省



豊樂殿跡  
豊樂院の正殿である豊樂殿の調査は交通量の少ない夜間におこなわれ、基壇の一部のみがみづかりました。



豊樂殿跡  
豊樂院の正殿である豊樂殿の調査は交通量の少ない夜間におこなわれ、基壇の一部のみがみづかりました。

出水通

下立池通り

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

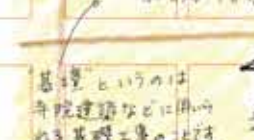
中務省

中務省

中務省

中務省

中務省



基壇  
基壇というのは、寺院建築などに用いられる基礎工事のことです。



JR 二条駅

出水通

下立池通り

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

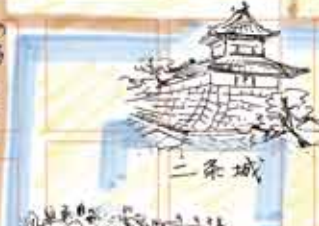
中務省

中務省

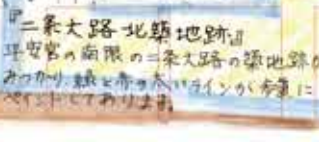
中務省

中務省

中務省



二条城



二条大路北頭地跡  
平安宮の南限の二条大路の築地跡がみづかり、柱と土間のラインが本堂にみづかりました。

出水通

下立池通り

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省

中務省